



ものみないきいき

平成三十年五月

園長 老沼 靖子

初夏を迎えました。

幼な葉、若葉、青葉と一日毎に様相を変えて行く草木が、生き生きと命の漲りを伝えます。

入園式での蜂の巣をつついたような騒ぎから、すでに三週間が過ぎようとしています。

それぞれの家庭から、何の気取りもなく、そのまま抜け出してきた子ども達は、まさに十人十色で、その突拍子の無さに驚いたり、呆れたり、おかしかったり、かつ、思いのまま四方八方に動くエネルギーを、こちらも全身で受け止めて一日を送ります。

しかし、子どもたちの園生活への順応は、驚く程早いです。持ち物をしまう、椅子に座る、お話を聞く、歌をうたう、手を洗う、靴の出し入れ、遊具の使い方、お帰りの支度、並び方など大分、身についてきました。お給食も始まりました。食事の準備、食事のご挨拶、きちんと座って食べることに、食後のお片付け等々。少しずつ自分でできるようにしていきます。集団生活の中で、お互いにお友達をやることが見ながら、みるみる覚えていきます。

人が生活する上での基本を、まず身につけなければなりません。

一回目の英会話がありました。こちらの心配をよそに、お行儀良く座って、ハシ先生とニジ先生の一語一語を、キャツキャツと喜んで真似していました。「今年も素晴らしい子どもたちです。」という報告を頂きました。サッカーもジャズダンスも体操もやってみました。どれも、子ども達の興味を引

き付け、終わった後は嬉しそうにかけよって来て、「楽しかった」と口々に話してくれます。

一回目の八国山歩け歩けも、年長さんがしつかり年少さんの手を引いて、ほっこり広場まで四十分、元気に歩きました。お弁当の準備や片付けも年長さんが手伝ってくれました。新緑の下で、お母さん手作りの嬉しいお弁当を食べ、一面のたんぽぽの原っぱで走り回り、八国山の傾斜を登ったり下りたり、泥んこになって、満足げな顔で、帰ってきました。

近年子どもたちの遊び場や遊ぶ時間は極度に狭められています。精心幼稚園では開園以来、八国山や野山の自然の中で遊んできました。今なお、目の前に八国山があることを、とみ頓に有難く思います。

精心幼稚園伝統の「歩け歩け」の日は、保育時間を三時まで延長して、自然の恵みの中での育み、心身の鍛錬、遊びきるなど、「遊びはすべての原動力」という教育目標を実現しています。

こうしてご両親がほんの数週間見ている間に、子どもたちは目覚ましく自立していつているのですよ。

ガーデンの草花もグングン伸びています。黄木香バラは早くも盛りを過ぎようとしています。他のバラも次々と咲き始めています。

五月十九日の「ローズガーデンパーティー」まで開花を待つて欲しいと心配しながら日々、様子を見ています。願わくば、最高に美しいタイミングで皆様をお迎えし、ゆつたりとした時を過ごして頂きたいと思います。

「美しい本物」を沢山見て、「美しいと感じる心」を重ねていきましょう。